

カテゴリ	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合 選択入力	【予定】の場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
環境	11 【廃棄物】 ・ 廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本			生産工程やオフィスから発生する全ての排出物は、自社内での減量化や再利用、リサイクルを可能な限り実施した上で、処理業者へ委託して再資源化することを基本としている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/#2_03 また、エプソン独自のドライファイバーテクノロジー/PaparLablによって、社内の使用済み古紙をコピー用紙やプリンター部品に再生利用している。 https://corporate.epson.jp/philosophy/value-creation/pdf/epson_hamizakugen.pdf			3.9		6.3		8.4	9.4		11.6	12.2 12.4 12.5		14.1	15.1				
	12 【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・ 自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本			「省エネによるCO2の排出削減」「CO2以外の温室効果ガスの排出削減」を活動の主軸に置き、国内事業所だけでなく海外も含むすべての関係会社でエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/decarbonization/#2_03							7.3				12.4	13.2						
	13 【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・ 自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本			SBTiに承認された、2025年までにスコープ1、2の温室効果ガス(GHG)を2017年度比で34%削減するという目標に向け、各拠点で省エネ活動を推進している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/decarbonization/#2_01 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/decarbonization/#2_03							7.2 7.3				12.4	13.2						
	14 【有害化学物質】 ・ 法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本			生産で使用する化学物質の情報を全世界で一貫管理し、化学物質の使用量の削減やPRTR(化学物質排出移動量届出制度)対象物質およびVOC(揮発性有機化合物)の排出量を削減するための施策を継続的に実施している。併せて、商品に使用する化学物質の管理を適切に行っている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/pollution-prevention/#2_01 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/pollution-prevention/#2_02 https://corporate.epson.jp/sustainability/esg-data/environment.html#ac03 また、使用済みの有害物質については、自社処理(法基準を下回る自主基準を設けて放流)、または廃棄物として信頼のおける業者へ処理を委託している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/pollution-prevention/#2_03			3.9		6.3							12.4 12.5		14.1	15.1			
環境	15 【生物多様性】 ・ 自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本			生物多様性に影響を与える5つの要因に対し、気候変動対策、資源循環・省資源・汚染防止・化学物質管理の「環境負荷低減活動」により、それら影響要因の低減化を着実に進めている。 「2050年地下資源消費ゼロ」にむけて生態系に影響を及ぼす地下資源の新規探掘をやめ、地上資源を循環させる取り組みを進める。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/biodiversity/						6.6									15.1 15.2 15.4 15.5			
	16 【3Rの推進】 ・ リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本			ライフサイクル全体で商品が環境に与える影響を考慮した環境配慮設計を行っている。併せて、資源循環の輪を太く大きくするために、お客様・業界・地域と連携し、世界各国・地域で使用済み商品の回収・リサイクルを進めている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/#2_01 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/recycle.html https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/#2_02 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/products/products.html#2_05 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/recycle-genuine-cartridges.html また、生産工程やオフィスなどから発生する排出物は、拠点内での減量化や再利用を行い、やむを得ず廃棄物として排出する場合はリサイクル可能な処理業者へ委託することを基本としている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/								8.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15.1				
	17 【水の管理】 ・ 水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ			生産工程において、工場排水のリサイクル率向上や水質規制強化への対応などに積極的に取り組むとともに、水処理設備については、より省エネルギータイプを導入するなど、総合的な環境負荷低減を図っている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/resources/#2_03					6.3 6.4		8.4				12.2				15.1			
	18 【環境マネジメントシステム】 ・ ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ			環境マネジメントシステム(EMS)の遂行状況は内部監査で点検し、不適合事項は是正している。 EMSの運用には国際標準規格のISO14001を活用し、PDCAサイクルを回して継続的な改善を図っている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/esg-data/environment.html#2_05 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/management/#2_01			3.9		6.3 6.4 6.6	7.2 7.3		9.4		11.6	12.2 12.4 12.5	13.2			15.1 15.2 15.4 15.5		17.7 17.17	
19 【環境情報開示】 ・ 環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ			環境活動のHPやサステナビリティレポートに活動内容を公開している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/report/			3.9		6.3 6.4 6.6	7.2 7.3		9.4		11.6	12.2 12.4 12.5	13.2			15.1 15.2 15.4 15.5		17.7 17.17		
20 【再生可能エネルギーの利用】 ・ 再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ			2021年4月から、長野県の全ての拠点で信州産のCO2フリー価値付き電力(信州Greenでんき)を使用している。2021年11月からは、国内すべての拠点で再生可能エネルギー100%を達成した。さらに2023年12月にはグローバルで再エネ化を完了。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/decarbonization/#2_04 https://www.epson.jp/osirase/2021/210415_2.htm https://www.epson.jp/osirase/2021/210318_2.htm https://corporate.epson.jp/news/2024/240109.html							7.2					13.2						17.17	

	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合 選択入力	【予定】の場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
21	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ			環境ビジョン2050で自然資本の使い方を抜本的に変えていくことを宣言し、地上に掘り出した地下資源を「地上資源」として活用することで新たな地下資源消費を減らし、非生物フローを今後のエネルギー源として利用していく。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/vision/#h2_01 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/vision/#h2_02 紙製品の調達方針として、1. 古紙などリサイクルパルプの有効活用、2. パージンパルプが原料として使用される場合は、合法性・持続性・化学物質安全性・環境管理の確認を定めて運用している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/supply-chain/paper-procurement.html								8.4					12.2	13.2		15.2 15.5			17.17
22	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本			企業行動原則および社員行動規範に贈収賄の禁止を定め、グループ内に周知徹底を図っている。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/#anchor05 https://corporate.epson.jp/philosophy/pdf/global_code_of_conduct.pdf 「ビジネスパートナー向け贈収賄防止・腐敗行為防止・競争法（独占禁止法）遵守ガイドライン」を制定し、グループ内に周知を図っている。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/anti-bribery-guidelines.html																		16.4 16.5	
23	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本			企業行動原則および社員行動規範に不正競争の禁止を定め、グループ内に周知徹底を図っている。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/#anchor05 https://corporate.epson.jp/philosophy/pdf/global_code_of_conduct.pdf 「ビジネスパートナー向け贈収賄防止・腐敗行為防止・競争法（独占禁止法）遵守ガイドライン」を制定し、グループ内に周知を図っている。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/anti-bribery-guidelines.html																		16.4 16.5	
24	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本			企業行動原則に知的財産の適正管理と他者が有する資産の尊重を定め、グループ内に周知徹底を図っている。 イノベーションを促進するIPランドスケープに取り組んでいる。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/#anchor06 https://corporate.epson.jp/technology/intellectual-property/protection-and-promotion.html							8.2 8.3		9.4 9.5 9.b								16.4 16.5 16.7		
25	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本			企業行動原則に個人情報の適正管理を定め、グループ内に周知徹底を図っている。 https://corporate.epson.jp/privacy/policy.html https://corporate.epson.jp/sustainability/governance/security.html#h2_02 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principles/#anchor06																		16.4	
26	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ			紛争鉱物問題を調達活動の主要課題と位置付け、人権侵害、環境破壊などを引き起こし、武装勢力などの資金源となっている紛争鉱物は使用しないことを中期目標に掲げ、体制を整備するとともに、調査・リスク低減活動に取り組んでいる。 https://corporate.epson.jp/sustainability/supply-chain/conflict-minerals.html				4.1	5.2				8.7									16.4	
27	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ			サプライヤー管理プログラムを制定し、サプライヤーガイドラインの遵守要請、サプライヤーによる自己評価、リスク分析、現場確認、改善活動のサイクルにより行っている。いずれのサプライヤー評価においても、サプライヤーと協働で改善活動を行い、レベルアップを図っている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/supply-chain/guideline.html サプライヤーによる自己評価の結果、ハイリスクのサプライヤーおよび人権リスクやコンプライアンスリスクを特定した場合、是正要請・是正確認を実施している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/supply-chain/approach.html#h2_03			3.9	4.1 4.3 4.4 4.5 4.7	5.1 5.2 5.5	6.1 6.2 6.3 6.4 6.5 6.6		7.1 7.2 7.3	8.4 8.5 8.6 8.7 8.8	9.4	10.2 10.3 10.7	11.6	12.2 12.4 12.5 12.6	13.1 13.3	14.1 14.2 14.3	15.1 15.2 15.3 15.4 15.7	16.1 16.2 16.4 16.5 16.10	17.16 17.17	
28	【パートナーシップ構築宣言】(R5.9.5～追加) ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本			パートナーシップ構築宣言を作成・公表している https://www.biz-partnership.jp/declaration/3888-05-22-nisano.pdf				(3)					(8)	(9)	(10)							(17)	
29	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本			世界中のどの国・地域でも同じ品質を提供できるよう、グループ統一の品質保証規程と製品安全性管理規程を定め、世界同一レベルでの製品品質を実現している。 特に商品の安全性や環境法規制の適合性については、グループ統一品質規格であるEQS (Epson Quality Standard) を設け、世界各国・地域の安全規格や法規制の要求レベル以上の自主規制を幅広く実施している。また製品事故の未然防止、再発防止に向けて、あらゆる分野において徹底した安全性の評価を行い、お客様への安全・安心の提供に努めている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/customer-commitment/safety.html 「製品に関する重要なお知らせ」をエプソンのホームページのトップに掲載し、製品安全に関する情報を提供している。 https://www.epson.jp/info/7fwlink=stetop.info														12.4					

	製品・サービス	チェック項目	取組レベル	【非該当】 の場合 選択入力	【予定】の 場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																																		
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																		
30		【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本			企業行動原則「1.お客様満足追求」を全社員が実践することでお客様に満足していただける商品/サービスの提供に努めている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/customer-commitment/policy.html 常にお客様に寄り添い、誠実、丁寧、的確に素早く対応し、お客様の困りごとの解消に最善を尽くすと共に、お客様の期待に応える商品開発を行います。 https://corporate.epson.jp/sustainability/customer-commitment/customer-value/															12.8				16.6 16.8																
31		【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ			生産工程や商品の省エネルギー、資源効率向上、有害物質排除など、環境負荷低減の取り組みにより創出した環境配慮型商品を提供している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/products/products.html https://corporate.epson.jp/sustainability/environment/products/customers.html									3.9							6.3 6.4 6.6	7.3				9.4					11.6	12.2 12.4 12.5	13.2				15.1 15.2 15.4 15.5			17.7
32		【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ			価値創造ストーリーに基づき、社会課題を起点に、自社が貢献できるマテリアリティを特定し、独自のコア技術をベースにイノベーションを起こし、社会課題を解決する価値を創造し、提供することでSDGsの達成に貢献している。この価値創造を継続して行うことにより、持続可能でこころ豊かな社会を実現する。 https://corporate.epson.jp/philosophy/value-creation/ 長期ビジョンにて、『「省・小・精の技術」とデジタル技術で人・モノ・情報がつながる、持続可能でこころ豊かな社会を共創する』と定め、環境、DX、共創への取り組みに重点を置き、5つのイノベーション領域において、エプソンでしか成し得ない新しい価値を創り出している。 https://corporate.epson.jp/philosophy/vision/ https://corporate.epson.jp/philosophy/vision/epson25rs_areas.html https://openinnovation.epson.com/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																		
33		【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本			事業所が立地する地域の皆様に招いて毎年意見交換会を実施している。地域の皆様に当社の環境活動やリスク管理体制について理解を深めていただくことで、友好的信頼関係の構築に努めている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/initiatives/communication.html#2_04 先住民の権利尊重のため、サプライチェーン調査を行い、是正が必要な場合にはサプライヤーに要請している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/supply-chain/approach.html#2_04																								4.4								11.6			
34	社会貢献	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ			世界各地でそれぞれの地域社会に根ざした社会貢献活動を通して、社会との共生を進めている。 企業に対してより高い社会性が求められていることを社員一人ひとりが自覚し、良き企業市民として積極的に社会に貢献し、ともに発展できる関係を築いている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/citizenship/social.html https://corporate.epson.jp/sustainability/citizenship/fantas-aquarium/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																			
35		【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ			職域生協が社員食堂で提供する食材やパン、菓子などは地域のもを調達している。 また、2021年4月からは、長野県の全ての拠点で信州産のCO2フリー価値付き電力（信州Greenでんき）を使用している。 また、バイオマス発電所の建設を計画中で、地域のバイオマス材料を活用した再エネの創出に取り組む（2026年中の稼働を目指す）。 https://www.epson.jp/osirase/2021_210527_2.htm https://corporate.epson.jp/news/2024_240207.html																									7.2	(8)	(9)				(11)	(12)	13.2		
36		【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有している	基本			経営理念を職場に掲示し、各職場で朝会時に唱和し、指差し確認している。年2回の方針大会で経営目標を社長から社員に説明している。 https://corporate.epson.jp/philosophy/vision/ https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/management-philosophy.html																											(8)	(9)							(17)
37		【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本			企業行動原則及び社員行動規範に法規制などのルールを守ること定め、グループ内に周知徹底を図っている。 https://corporate.epson.jp/philosophy/epson-way/principle/#anchor05 毎年10月を「コンプライアンス月間」と定め、全世界でコンプライアンス意識の向上及びコンプライアンスリスクの低減を徹底する期間としている。 https://corporate.epson.jp/sustainability/governance/initiatives.html#2_01 信頼関係を維持・強化するため、経営の透明性・公正性を高め、さらに迅速な意思決定により実効性を踏まえた適切なコンプライアンス・リスクマネジメントを推進している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/governance/system.html#2_01 https://corporate.epson.jp/sustainability/governance/system.html#2_03	（ ）内のターゲットは長野県により選定されたもの （当社で紐づけ未実施のため参考として記載）																																		
38		【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本			サステナビリティ担当役員を任命し、サステナビリティ活動を進める体制や会議体を設置している。 https://corporate.epson.jp/sustainability/initiatives/																																	(16)		

